

小林真紀子

ほとりの記憶

永遠をこの手に掴みたいと欲する人のため
まだ明けきらぬ森のみずうみに駆けてゆく
午前4時からわずかの間青白く咲くという花
その光のしずくを手のひらにすくってすくって
そしてそのまま花のひとつにわたしはなった